

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	薬用人参および甘草の種苗生産技術と継続性のある新産地形成に関する研究開発
代表機関名	国立医薬品食品衛生研究所
研究開発代表者名	伊藤 美千穂
全研究開発期間	令和5年度 ～ 令和9年度（予定）

1. 総合評価

- ・良い

【評価コメント】

薬用人参及び甘草栽培に向けて、研究開発代表者が中心に参画企業や栽培従事者、自治体関係者等とも連携して、予定通りに進めている。薬用人参栽培の基盤整備では、前回の研究開発課題（新メソッドによる薬用人参ニンジンの品質評価を軸とした伝統的栽培法数値化と効率的生産法の開発）の成果に基づき、島根大学で種苗供給体制作りを進め、地域での栽培体制を支援する持続的体制が整えられており、評価する。今後、種苗供給体制を強化して、全国の生産希望者に供給可能となる種苗供給システムが実現されることを望む。

モノリスキャピラリーカラムを用いた詳細な成分分析による成果を最大限活用し、どのような成分組成の薬用人参や甘草を目指すことで付加価値を高め、競合と差別化を図るのか、参画企業とも協議の上、マーケット的視点も取り入れられて研究開発を進めることが重要である。その上で、得られた結果を各栽培化検討に的確にフィードバックし、優良系統の選別や栽培化に活かしていただきたい。また、非薬用部位利用の検討は興味深いが、薬機法の広告規制や景品表示法に基づいた目指す効能効果/ヘルスクレームも踏まえて、ヒトでの有効性につながる評価方法や評価濃度にて検討を進めていただきたい。

以上